

華岳山恩林寺発行



令和7年10月号

# 頌陀笈 160



写真：恩林寺で用いる勤行用経本（禪林課誦と禪門日課典）



お寺へ行こう 和尚さんと友だちになろう

中山かんのん  華岳山 恩林寺

中山中学校下

〒506-0052 岐阜県高山市下岡本町2779

✉ kagakuzan@onrinji.com ☎ (0577)34-1245

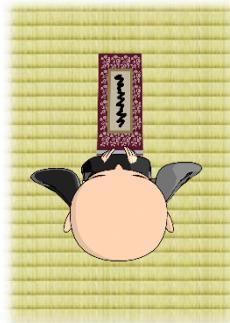


<https://onrinji.com/>

確か小学五年の時だつたと記憶しておりますが、そのころは戦後の復旧の時代で各お寺さんでも梵鐘の再鋲、本堂の屋根葺き替えなどの大法要が相次いで行われました。ある時、東山の大きな

お寺での法要の招待があり、和尚が所用で出られなくなり代理に私が参列させてもらうことになりました。

馬鹿者う。



お寺での法要の招待があり、和尚が所用で出られなくなり代理に私が参列させてもらうことになりました。

気が付くと五条を身に着けた坊様が目の前に仁王立ち。あまり見たことの無い坊様。つまりは、大切なお經の本を人が足で歩く

畳のうえに置くことは、けしから

黒の麻衣に黒の洛子（袈裟）、緊張して登山、控えの間にはたくさんのお坊様方が並んでおられます。私は顔見知りの和尚さんの

末席に座らせて頂きますと、次に経本が手渡されます。恭しく

経本を受け取ると、隣の和尚さんに倣つて膝前に置いた瞬間、「うらう。どに置くんじや。もつたいない。

すがその後、何年かの後、禪の本を読んでわかつたこと。昔の禪宗の偉い坊さんは、修行中の雲水さんが仏法ぎりぎりのところ本物の仏法を求めてきても本人がそこまでの域に達していないとみれば、追い返すとか棒でたたいたりしたという。（三十棒、六十棒とかいう）これも親切というもの。ぎりぎりのところは紙に書いたり、言葉で説明しても伝わるものではない。以心伝心。

バカ者一。の五条坊様、小僧を叱るにも、躊躇いもあつたろうに、ようこそ注意してくれたものと、後になつては申し訳ないのですがその勇気と親切に感謝をしてい

## 和尚の畠(専農?)(洗脳)脳業)

### こぼれ話

今年は毎日、暑い日が続き、畠仕事もサボりがち。草茫茫々の茄子の畠も意外と成績がよく、もう、秋茄子がうまい

時期になりました。



先代和尚は、茄子が

嫌いでほとんどたべなかつたのですが今和尚は(アキナ)でなく秋茄子が大好き。茄子の味噌煮など、かつおの刺身よりうまい。まさに秋茄子は嫁に食わすなの言い伝えの通り、天然の恵みですナア。

### 昭和の和尚、下岡本を語る

毎年、秋になると(富山の薬売りの爺さんが三段行李を大風呂敷

店へ行きました。

本町通りの西野薬局、川とら薬

少し上等な薬が欲しい時は

先駆けでした。



住職合掌

に包んで)「皆さんどうしておられますけえ。また薬の箱見せてもらいに來たがやぢや。」独特の外國語(富山弁)で配置薬の訪問です。春先にも爺ちゃんは来るので

すが、どうも秋の訪問のほうが印象深いです。我が家にも配置薬の紙袋が二つ。

ずっと昔からのお付き合いのように対応はうまいものでした。大新町の西村ばあちゃんはタラの干物、昆布など日持ちの良いものを



コウザ(竹で編んだ背負い籠)に入れて売りにきてくれました。まさに現代でも通用する訪問販売の

涅槃忌の涅槃団子は自家製でしたので食用色素は伊藤松太郎薬局まで出かけました。入れ薬の爺ちゃんのおまけは紙風船でした。

小僧さんの



## 雲水日誌

### 【第四章七節】線引作務

毎月14日と月末は、全ての御堂を綺麗にします。仏像に付いた埃を払つたり、香炉に埋まつた線香を取り出したり。石畳はモップで磨きます。

猛暑日でも堂内は涼しく、快適に作務をしていました。

しかし突然、和尚から「線引」を頼まれました。禪宗寺院の庭で見かける白砂に線を引く作業です。萬福寺には4箇所あります

が、そこは陽のある場所。同夏は誰がやるかジャンケンする

事になりました。結局私ともう一人が負け、線引きをする事に。猛暑の中、重い専用器具で引いていきます。相手は白砂のため、なかなかの力仕事。しかし不器用な二人が行うと線が斜めになってしまいます。汗だくになりながら、引いた箇所を何度もやり直してしまいます。汗だくになりながら、子供らは楽しそうに遊んでおりました。その様子に怒りもし、ようやく一箇所目が完成しました。



した。交代するとあつという間に引き終えてしまいます。私は飛び出した石を掃除するだけ。なんとか夕方までには全ての白砂が綺麗になりました。

器具を片付け、僧堂に帰っていると：参拝客の子供が白砂の上を歩いているのを発見！やつとの思

いで綺麗にした場所に足跡が付く様子を見て落胆しました。

しかし、子供らは楽しそうに遊んでおりました。その様子に怒りも忘れ、また明日綺麗にしようとも夏で話して帰りました。

残りの三箇所もお互い助言しながら作務をしていると、堂内作務

を終えた器用な同夏が合流しま

